

病院スタッフもボランティアで手作りマスクに挑戦！

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、医療スタッフ用マスクの供給不足が危惧された4月半ばに、がんセンターで手作りマスクのプロジェクトがスタートしました。マスクの作製、材料購入資金の寄付、ガーゼや耳掛け用ゴム・布地の寄付などの呼びかけに応じてくださったのは、病院スタッフ、その家族やお仲間、外部のグッズボランティアやサポートチームの皆さん。ボランティアでマスク作りに挑戦し、直接患者さんと接することのない病院スタッフに約600枚のマスクを配布しました。



手作りマスクの作製には、型紙作り、布地の裁断、折り目のアイロンがけ(写真右)、ミシン縫い、耳掛け用紐の取り付けといった工程があります。そのすべてを一人



で作業した洋裁上手の方はもちろん、洋裁は苦手だけど、という方にも裁断や紐付けの作業に参加してもらい、約1か月で目標の枚数に達することができました。完成したのは、カラフルな模様を着けるだけで気分がアップしそうな手作り感あふれるマスク(写真左上)。

つけ心地の良い立体マスク(写真左下)は、これまで素敵な布帽子を作製してくださっているグッズボランティアのTさんから寄贈されたものです。配布を受けたスタッフからは「手持ちのマスクが不足していたので、とても助かりました。使い心地もいいし、洗えるので大事に使いますね」と好評でした。普段は外部のボランティアの皆さんから、病院に力を貸して頂いてきましたが、今回は院内スタッフによる、院内スタッフのためのボランティア活動、を実現することができました。これぞ「がんセンターの底力！」と実感しました。

